

# 平成26年度「水環境文化賞」を受賞して

NPO法人家棟川流域観光船理事長 北 出 肇

この度は、名誉ある「水環境文化賞」を受賞できましたことに感謝しております。私たちのこれまでのあゆみと今後の取り組みについて紹介させていただきます。

## 1. びわ湖の現状と野洲市を流れる家棟川の課題

びわ湖はわが国最大の湖で、誕生したのは400万年前といわれる世界でも数少ない古代湖の一つであり、1,000種を超える豊かな動植物と60種類余りの固有種を擁する世界的にも貴重な湖である。また、びわ湖は滋賀県のみならず京阪神を含む約1,400万人に水を供給する重要な淡水資源であり、下流淀川の洪水防止や水産資源、観光、レクリエーション等の場としても大きな役割を果たしている。しかし、その一方で、高度経済成長期と1972年より始まったびわ湖総合開発などの影響により、びわ湖を取巻く自然環境や人とびわ湖の関わりは大きく変貌してきた。上下水道の整備や湖岸堤の建設、水田における用排水の分離などにより、人々は便利で快適な生活を送れるようになった反面、ヨシ帯や内湖など魚介類の産卵・繁殖の場が失われ、漁獲量は激減し、今日では生活の中でびわ湖の恩恵を感じるものが少なくなっている。

野洲市は滋賀県の湖南地域に位置し、母なるびわ湖と秀峰、三上山をはじめとする山々を有し、実り豊かな田園風景が広がる自然環境に恵まれたまちである。

野洲市はその市域と家棟川流域がほぼ一致するという特徴を持っている。野洲市の山々を水源とする家棟川は、市内を流れる約8割の川が合流してびわ湖に注いでいる。40年前まではもみ殻や肥料を運搬する田舟が行き交う美しい川であった。しかし、野洲の市街化の進展に伴い、大量のゴミや水田からの濁水の流入、ヘドロの堆積や在来魚介類の減少など、家棟川流域にはびわ湖と同じ多くの課題を抱えている。このままではびわ湖はもたない、何とかしなければとの強い思いを持って2006年から地元の住民を中心に、川のゴミ回収作業を始めた。ゴミの量は多い時で一度にビニールの大袋で80～100袋にもなった。しかし、ゴミを拾っても上流から流れてくる生活ゴミは一向に減らなかった。これをなくするには、市民が川に親しみ、川を守るようにするしかないことに気づいた。

## 2. NPO 法人家棟川流域観光船のあゆみ

こうした状況の中で、家棟川の状況をより多くの人々に知ってもらい、ゴミがなく自然環境に恵まれた家棟川を目指して、地域の漁師、農家、自治会長や市民団体のリーダーが中心となり2007年に「NPO 法人家棟川流域観光船」を設立し、家棟川の河口部で手漕ぎ舟の運行を始めた。エンジンではなく櫓で遊覧できる素晴らしさ、船頭の語る川やびわ湖の環境の話、びわ湖で獲れた湖魚

を使った美味しい漁師料理を食してもらい、自然の素晴らしさや環境を守ることの大切さを多くの人たちに訴えることができた。この8年間で地元の自治会、子ども会、学校関係者をはじめ県外からの利用客を含めると約5,000名が乗船したことになる。この活動を通じて川づくりに取り組む仲間を増やし、こんなに素晴らしい川があることを知ってもらい、また水質や生き物調査などの環境教育、芋ほりや稲刈りなどの農業体験を実施し、大人も子どもも楽しみながら学べる取り組みへと発展させることができた。また、私たちの活動は野洲市環境基本計画(2007年策定)、滋賀県の「マザーレイク21計画」の重要プロジェクトとし、注目されている。さらに、産官学民が協働しながら野洲市の自然環境の保全とまちづくりを進めている点も他の地域にはない特徴の一つといえる。

## 3. 今後の取り組み

今後の方向として次の2つの目標を掲げている。一つ目の目標は、「ビワマスの遡上する家棟川づくり」である。滋賀県琵琶湖環境科学研究センターの指導のもと、2011年より続けている家棟川の生態回廊再生を目指した生態調査がある。家棟川の水源地の山からびわ湖まで8ヶ所で春・夏・秋の年3回実施している。汚い水の川と思っていたが、びわ湖の北湖に注ぐ清流と変わらない22種類の在来種が生息しており、とくに貴重なタナゴの生息やモロコ、ビワマスの遡上が確認できたことは感激であった。この活動成果は平成26年度、滋賀県の「取り戻せ！つながら再生モデル構築事業」に採択され、「ビワマスの遡上する家棟川づくり」プロジェクトが産官学の支援と協働のもと具体化に向けた第一歩を踏み出している。

二つ目の目標は、これまで進めてきた観光を切り口にしたびわ湖と川の水環境保全活動の輪をもっと広げていくことにある。そのためには、もっと多くの人たちとの交流、ネットワークを構築する必要がある。昨年より新たにびわ湖湖岸地域の観光資源を掘り起し、それを活かした自然環境学習や農林魚業体験事業に取り組んでいる。具体的には他の地域にはない「エコ遊覧船」と野洲の伝統料理「漁師料理」を中心に、川やびわ湖に直接ふれて、見て、感じ、学べる農漁業体験やボランティア活動、集落のお祭りへの参画など地域ならではの特色ある観光資源と組み合わせた、地域の人たちが主役の体験交流型ツーリズムを企画推進していく考えである。

これらの取り組みが私たちの目指す三つの目標「山・森・川・田畑・びわ湖の環境保全」、「湖魚や農産物による地産地消でまちづくり」そして「地域の人に働く場を確保して地域経済を活性化する」の実現への近道であると信じて、今後も活動を続けていきたい。